

令和2年6月3日
独立行政法人国立科学博物館

報道関係各位

時の記念日 100周年企画展 「時」展覧会 2020 開催のお知らせ

国立科学博物館（館長：林 良博）は、2020（令和2）年6月5日（金）から7月12日（日）までの期間、下記のとおり、**時の記念日 100周年企画展 「時」展覧会 2020**を開催いたします。

6月10日の「時の記念日」は、1920年に東京教育博物館（現在の国立科学博物館）で開催された「時」展覧会が大人気になったことがきっかけとなり誕生しました。2020年は「時の記念日」100周年にあたります。本展では、当時を振り返るとともに、今日まで続く日本の時計技術の歩みと「時」に関する最新の研究を紹介し、私たちに身近な「時」について改めて考える機会をご提供いたします。

つきましては広報に関して特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。

記

- 【会場】 国立科学博物館（東京都台東区上野公園 7-20）
日本館地下1階多目的室、地球館2階常設展示室内
- 【開催期間】 2020（令和2）年6月5日（金）～7月12日（日）
- 【開館時間】 9:00～17:00
- 【入館料】 常設展示入館料のみでご覧いただけます。
一般・大学生：630円、高校生以下および65歳以上無料
- 【入館方法】 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を実施します。
※入館にあたっては、当館ホームページでの事前来館予約が必要となります。
※入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。
※多目的室会場は、常時入場定員を設けます。
※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください。
<https://www.kahaku.go.jp/news/2020/reservation/index.html>
- 【休館日】 毎週月曜日、6月22日（月）～26日（金）（害虫駆除のためのくん蒸期間）
- 【主催】 国立科学博物館、明石市立天文科学館、日本時計協会
- 【協力】 情報通信研究機構、カシオ計算機、シチズン時計、セイコーウォッチ、
セイコーエプソン、セイコークロック、セイコーミュージアム、リズム時計、
日本時間学会、山口大学時間学研究所
- 【資料協力】 海上保安庁、国立天文台、郵政博物館
- 【展示概要】 別添の本展チラシ参照
- 【問合せ先】 国立科学博物館 事業推進部 企画展示課 担当：飯岡
〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
TEL：03-5814-9840、FAX：03-5814-9898、E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

展示監修者



明石市立天文科学館 館長

井上 毅 (いのうえ たけし)

日本標準時子午線の真上に立つ明石市立天文科学館の学芸員。専門は天文普及。同館の開館日であることから「時の記念日」に興味を持ち、その魅力に惹かれて調査研究を続けています。



情報通信研究機構 主席研究員

細川 瑞彦 (ほそかわ みずひこ)

専門は物理学。通信総合研究所入所以来、主として時空計測や原子時計の研究開発に従事。光の原子時計や超小型原子時計の研究開発についてはその初期から携わってきました。



日本時計協会 顧問

山本 尚 (やまもと たかし)

時計事業展開における「次世代育成関連事業」として次世代を担う若手技能者の育成、産学共同事業、被災地復興支援・時計組立教室などの公益性の高い活動を通して業界のすそ野を広げる事に注力しています。



日本時計協会 専務理事

岸 良一 (きし りょういち)

日本の時計産業の総合的な発展を目指して、時計に関する統計情報の収集・分析、安全で快適な消費の促進、時計産業に関わる国際交流の推進といった活動に取り組んでいます。



山口大学時間学研究所 所長

藤澤 健太 (ふじさわ けんた)

専門は天文学。研究対象は星とブラックホールで、これらの天体の研究を通じて、宇宙の現象を時間を軸として考察しています。また、時間にかかわる様々な研究を、時間学として体系化する取り組みも行っています。



時計雑誌編集者・ライター

高井 智世 (たかい ともよ)

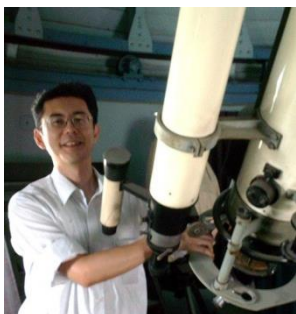
古時計の時計修理工房や、「時の記念日」とつながりが深い近江神宮の時計学校で時計の基礎を学んだのち、高級腕時計専門誌の編集者・ライターへ転身。時計から時、時間に興味を広げ、その面白さを追究しています。



国立科学博物館 名誉研究員

佐々木 勝浩 (ささき かつひろ)

専門は和時計・塔時計・天文時計。和時計は、江戸時代に、日本の時計師によって作られた機械時計です。和時計の他、ヨーロッパの公共時計としての塔時計、特に天文時計に興味があり、それらの機構や歴史について調べています。



国立科学博物館 理工学研究部 理化学グループ研究主幹

洞口 俊博 (ほらぐち としひろ)

専門は天文学・宇宙科学。高温の星をとりまいているガスを測光観測や分光観測を行うことによって調べています。最近では観測データのアーカイブシステムやそれを生かした天文教材の開発などにも力を注いでいます。

6月10日は「時の記念日」です。671年、天智天皇が漏刻(水時計)を使って日本で初めて報時を行った故事に由来しています。1920(大正9)年5月から7月にかけて、国立科学博物館の前身である東京教育博物館で、当時、時間をあまり気にしていなかった庶民に時間厳守を促すため、時間をテーマにした「時」展覧会が開催されました。この展覧会が大人気になったことがきっかけになり「時の記念日」が誕生しました。

「時の記念日」100周年を迎える本年、一世紀ぶりとなる「時」展覧会を開催します。昔の「時」を学び、現在の「時」を理解し、未来の「時」に想いをはせてくだされば幸いです。



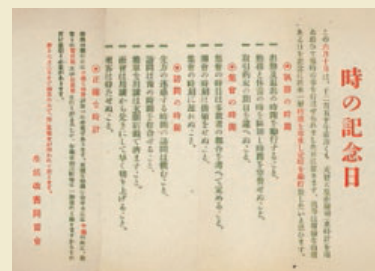
各会場の紹介

地球館2階 その時、人々は「秒」を意識した

1920年の「時」展覧会や「時の記念日」について紹介します。第1回の「時の記念日」では東京各所で時間を大切にする呼びかけが行われ、正午の時報に合わせて、大砲や工場の汽笛や寺院の鐘が一斉に鳴り、東京は“響きの都”になりました。「時の記念日」は、日本の大衆に「秒」を意識させた初めての大きなイベントとなり、その後日本人の時間意識にも影響を与えました。



『教材集録臨時号 誌上時展覧会』
(所蔵：明石市立天文科学館)



「時の記念日」に配布されたピラ
(個人蔵)



精工舎
八日巻掛時計
(所蔵：セイコーミュージアム)



セイコー
クォーツアストロン
(所蔵：セイコーミュージアム)



セイコー
クォーツLC V.F.A.
(所蔵：セイコーミュージアム)



カシオ G-SHOCK
DW-5000C
(所蔵：カシオ計算機)



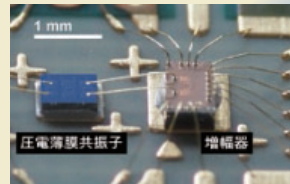
シチズン
クリストロン・ソーラーセル
(所蔵：シチズン時計)



シチズン多極受信型
アナログ電波修正時計
(所蔵：シチズン時計)



原子時計 (所蔵：情報通信研究機構)



超小型原子時計の心臓部
(所蔵：情報通信研究機構)

うるう秒の表示 (提供：情報通信研究機構)

日本館地下1階 多目的室

日本における時計100年の 技術の進歩と「時」の研究最前線

日本の時計産業は、この100年間、時間の正確さと携帯性の向上を限りなく求め続け、世界市場を席卷するクォーツ時計を次々に開発するなど、世界をリードしてきました。その歴史を写真や関連資料と合わせ魅力的な製品の数々で紹介します。また、正確な日本の標準時や原子時計、次世代の光格子時計の研究など、時間に関する研究の最前線も取り上げ、精度の向上が私たちの生活や社会をどのように変えたかを紹介します。

入館に際しての注意事項

- 入館の際は、当館ホームページでの事前来館予約が必要です。
- 入館前に検温、体調等の確認をし、発熱等がある場合は入館をお断りします。
- 多目的室会場は、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策として、常時入場定員を設けます。

※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください。
<https://www.kahaku.go.jp/>

交通ガイド

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
 - 東京メトロ 銀座線・日比谷線
「上野駅」から徒歩10分
 - 京成電鉄
「京成上野駅」から徒歩10分
- ※当館には駐車場および駐輪場はございません。

国立科学博物館
National Museum of Nature and Science
〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL：03-5777-8600(ハローダイヤル)
FAX：03-5814-9898
<https://www.kahaku.go.jp/>

